

登呂遺跡関連大場磐雄資料 - ガラス乾板と大場資料 -

加藤 里美（國學院大學日本文化研究所共同研究員）

國學院大學学術フロンティア構想では、平成 11 年度から「劣化画像の再生活用と資料化に関する基礎的研究」事業を実施してきた。フロンティア事業も来年度が最終年度となり節目を迎えるにあたって、これまでの作業を振りかえり、蓄積された成果を有効利用する方法、あるいは成果同士を有機的に連携する方法を模索している。こうした蓄積データの保存と公開に関する有効利用について、問題を提起し、研究促進の一助としたい。

1. 大場磐雄博士資料

当プロジェクトが扱っている資料は、神道考古学の創始者である大場磐雄博士資料に始まり、柴田常恵資料、宮地直一博士資料などいずれも近現代日本において学術・文化財行政において活躍された諸氏の記録である。大場博士の資料では、ガラス乾板（3704 枚）を中心とした写真関係の資料を、硝酸セルロースフィルム（574 点）を含めた 4276 点を対象として、画像のスキャニング、写真を保管していた箱や包み紙に記された「箱書き」「メモ書き」をテキスト化するという作業を進めている。まず、ガラス乾板をスキャニングしてデータ化し、保管していた箱や包み紙に記載されている、撮影日や撮影場所、被写体などの記載されたテキストデータを作成する。この記載は大場博士自身が書きとめられたものであり、写真資料に付随する重要な情報である。平成 15（2003）年 3 月現在、スキャニング、箱書き、メモ書きのテキスト化は残すところわずかとなり、被写体とテキスト、『楽石雑筆』などの大場博士の記録と照合している。さらに、こうした写真資料と関連して、我々が「大場資料」と呼称している、大場博士が収集された冊子や絵葉書、実測図なども写真資料とは別に大場博士資料目録として目録作成を進めている。これらは写真 1 に示すような紙製の箱の中に、さらに小分けに封筒に収められているものもあれば、むき出しで納められているものがあり、現状では 12 年度から始めて縄文時代編 18 箱、弥生時代編 13 箱、古墳時代編 32 箱の作業を終えている。残すところ、旧石器時代編、歴史時代編、祭祀遺跡編他をあわせた 100 箱ほどとなった。さらに杉山林継博士が保管されてきた大場博士を主体とした調査記録（35 mmリバーサルフィルム）などを含めると、極めて多量の資料が存在する。他の研究者の資料にもこうした一連の作業が行われていない資料も多く存在する。

上記の通り 写真原版のデジタル化・箱書き、メモ書きのテキスト化、「大場博士資料」の目録作成の 2 つの作業を平行して行ってきたが、これら蓄積されたデータの有効利用、及びそれぞれのデータ間の相関関係の有効利用、情報発信について最良の方法を模索している。以下に大場博士資料のうち登呂遺跡関連資料を取り上げて、この作業の 2 つの作業の有機的関連と、資料利用促進の可能性を述べて問題提起としたい。

2. 登呂遺跡資料を例にとって

写真 2・3 はガラス乾板を原版とする、登呂遺跡関連写真の一部である。登呂遺跡を撮影した写真は全体で 90 枚、このうち昭和 18（1943）年から 19（1944）年の調査時撮影ものが 77 枚、戦後の昭和 22（1947）年から 23（1948）年の調査時の撮影が 13 枚であり、9 割が昭和 18 年から 19 年までの調査記録である。写真資料は本作業の開始に当たり任意にナンバーリングを行い、取り込んだ画像・写真原版の規格・劣化状況・被写体・保管箱・包み紙に記載された内容などの情報を同時にデータ化している。この際に、報告書

などの関連資料を再度確認し、資料の位置付けをより明確に示すことを心がけた。平成12年度からは、写真の一部と「大場資料目録」を事業報告に掲載し、写真資料についてはその翌年からインターネット上での公開を開始している。そのうちの登呂遺跡関連写真の何点かは、登呂遺跡調査会発行の『登呂遺跡』と後に発行された登呂遺跡博物館発行の『登呂遺跡写真資料集』に掲載されているものである。以下に写真と表を用いて具体的に話を進めてみたい。

目録作成の作業として、例えば写真1にあるように茶色の紙製の箱の中に更に茶封筒に分けて「登呂遺跡関連文献」というものが保管されている。これらを実際に目録として作成する際には、茶封筒に収められている資料を取り出して、項目分けしていく。これがいわゆる「大場磐雄博士目録」である。さて、茶封筒の中には写真4・5のような小冊子が収められており、発行者も発行年も全て異なるものである。それぞれが登呂遺跡の重要性から社会への認知を高めるために作成され、配布されたものである。さらに写真6のような遺跡発掘調査の様子と発掘された遺物の写真が印刷されたプレートなどが含まれている。

こうした印刷物や出版物とは別に、大場磐雄博士自身が作成した冊子の類が幾つか存在する。例えば、写真7・8にあるような冊子である。まず、写真7を見てみよう。これは、昭和18年の登呂遺跡の調査時の記録を自身で作成した冊子である。表紙には「昭和18年8月調査 静岡市登呂遺蹟写真 大場磐雄」と記されており、恐らく大場博士が調査会から譲り受けたものと個人で撮影した写真を個人で整理したものと考えられる⁽¹⁾。内部には、写真を貼り付けその周囲にコメントが付け加えられており、それぞれの内容は異なったものが3部作成されている。青焼きなどを、反古紙を利用して、使用した面を中側に織り込み、白い裏の部分を利用している。これらを検討することでも興味深い資料を呈するであろう。また、写真8の表紙に「昭和22年度 登呂遺跡第1回発掘写真(登呂遺跡調査会撮影) 幹事大場磐雄控 表紙・目次」とあり、登呂遺跡調査会から控えとして正式に受けとった資料に、説明書きを付け保管することを意図して作成されている。これらの2点を取り上げてみても、大場博士の登呂遺跡調査に対する意気込みが伝わってくる。これらを目録上で確認すると、小冊子は表 、 、手作りの冊子は表 、 で示した部分に相当する(表1)。

このように、当該事業ではガラス乾板の整理・画像資料の保管と、写真資料の目録作成といった別々の作業として行ってきた。情報がデータ化され、以前に比べて格段に便利になると同時に、ガラス乾板をはじめとする写真資料は、原板を使用せずに画像を活用することができ、保存という側面も目標を達成できている。しかしながら、大場博士が調査対象とした「登呂遺跡」という1つの視点から2つの領域にまたがって資料の利用や調査を試みると、それぞれのデータベースを連携させて利用するのは容易ではない。目録を観察しても、表上には写真の内容まで記載していないため、資料の詳細は不明である。従って、登呂遺跡調査関連資料を利用する場合に不便が生じることになる。さらに、大場磐雄資料以外の登呂遺跡関連資料は膨大に存在する。本来であるならば、本学所蔵資料はより活用しやすい環境にあるべきであり、その上で他機関所有の資料との比較や外部利用への提供に努めるべきである。本学所蔵の学術資産の再構築を实践する上での先駆的研究とするためにも、少なくとも大場磐雄資料内の関連事項は、2種類の本データベースを利用することによって得ることができるべきであり、データベース間を結ぶ何らかのシステム構築およびデータ利用環境整備の必要性が指摘できる(図1)。

まとめにかえて

必要な資料を過去のデータの中からピックアップするのではなく、逆の視点から資料を活用することも考えられる。例えば、ある目的をもち大場磐雄が収集した登呂遺跡関連の資料あるいはその後刊行された報告書であるとか、登呂遺跡の博物館で作られている復元の建物など、蓄積されたデータを再検討し様々

な情報をたどることで、登呂遺跡というものを新たにクローズアップしていく事が可能となれば、考古学だけでなく文化財学や民俗学など関連する諸分野への活用も可能となり学会に寄与するところも大きいであろう。現在、こうした活用の拡大化を実現するために、蓄積したデータを学術資料アーカイブとしてどのように機能していくことが望ましい方向性であるのかと定める時期であると考えられる。同時に、こうした活動をアピールする必要があると考えている。

学術フロンティアのホームページは平成12年度から公開を開始し、インターネットを介した情報の提供を試みている。反響としては、外部の機関から写真資料の閲覧、博物館展示への利用、あるいは個人研究者から停滞した地域研究の空隙を埋めるための資料調査の希望などが寄せられてきた。今後は当該学術フロンティアの成果が、学内の他の資料との連携やさまざまな方式における学術資産の有効的利用の環境を整え、研究促進の中心的役割を担うことのきっかけとなれば幸いである。

注

(1) 3月15日の発表時に中野宥氏(登呂博物館)のご教示により写真4は昭和22(1947)年の調査の概要、写真5は昭和25(1950)年、写真6は昭和27(1952)年再版のものということが明確になった。また、印刷されたプレートは販売していたものではなく関係者に配られたものであることも判明した。

引用・参考文献

日本考古学協会『登呂』昭和24(1949)年

日本考古学協会『登呂本編』毎日新聞社、昭和29(1954)年

静岡県立登呂博物館『登呂遺跡出土資料目録 写真編』平成元(1989)年3月

学術フロンティア事業実行委員会『平成13年度 國學院大學学術フロンティア構想「劣化画像の再生活用と資料化に関する基礎的研究」事業報告』平成14(2002)年3月



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6

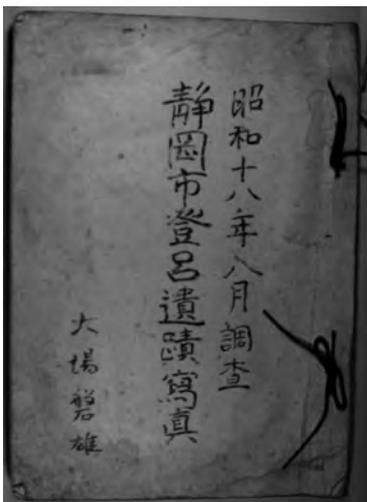


写真7

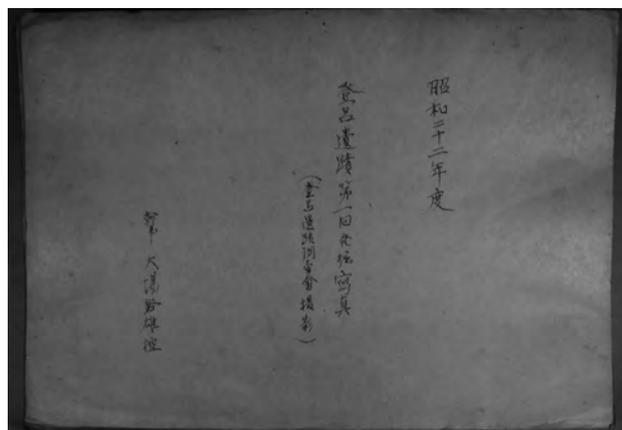
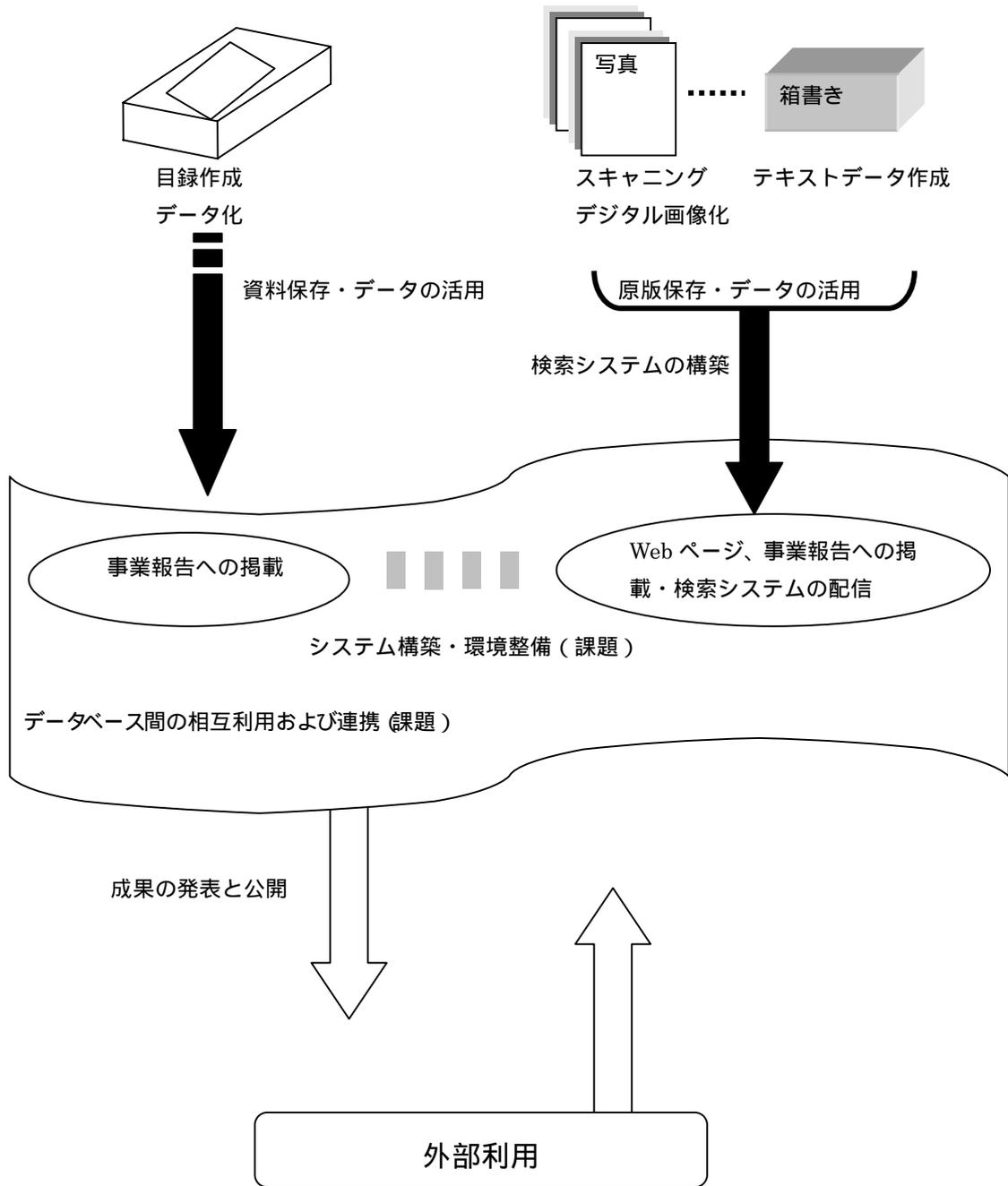


写真8

図1 大場磐雄博士写真資料・周辺資料の保存と活用



箱	封筒	都道府県	遺蹟名・所蔵者・日付け等	種別
13		3静岡県	登呂 登呂遺跡保存顕彰会	遺蹟
13		3静岡県	登呂 J25.10編集 静岡市発行	遺蹟
			中略	
13		7静岡県	昭和22年度登呂遺跡第1回発掘写真 登呂遺跡調査会撮影 幹事大場磐雄控 表紙・目次	
			中略	
13		11静岡県	昭和18年8月調査 静岡市登呂遺跡写真 大場磐雄	遺蹟・遺構・土器・木器・卜骨

表1 大場磐雄資料目録 - 弥生時代編 - (抜粋)